

CODE 海外災害援助市民センター
2008 年度事業計画
2008. 4. 1～2009. 3. 31

CODE 海外災害援助市民センター
2008. 6. 15 総会資料

◆2008 年度基本方針

阪神・淡路大震災から13年、当CODE海外災害援助市民センター（以下「CODE」と略す）が発足して6年を数える。CODEは、阪神・淡路大震災から学んだ多くの経験と教訓をもとに、この13年間常に「いま」と向き合ってきた。ここでいう「いま」は、阪神・淡路大震災から今日までの「いま」のみならず、当然のごとく営々と先人たちが歩んできた歴史を踏まえた上での「いま」であり、また未来にわたって私たちが、次世代にも語り継ぎながら、築いていく「社会」を見据えた「いま」であることはいうまでもない。これからも一歩一歩、ゆったりと歩んでいきたいと思う。

しかし、自然現象はそうした私たちのたゆまぬ歩みをあざ笑うかのように、容赦なく襲って来る。5月初めには大型サイクロン「ナルギス」がミャンマーを襲い、さらに続けて5月半ば、阪神・淡路大震災の20倍を超えるというエネルギーの大地震が中国四川省を襲った。国連やNGOなどの懸命の努力にもかかわらず、ミャンマーは軍事政権下にあることから国際社会の援助が効果的に届かないようだが、そんな中で日本の緊急医療チームをはじめ、CODEの正会員である鶴飼卓医師が現地入りするなど、最低限の医療支援を受け入れる状況までになった。一方、中国四川大地震の被災地では被災者4,500万人という想像を超える事態の上に、以前から懸念されている少数民族の被害全容が明らかにならないために、支援が届いているのかという不安を抱えつつ、他方で、わずか1ヶ月足らずで仮設住宅の建設ラッシュが表れている。また、農村・山間地域の移住再建か、もとの場所での再建かなどの協議も進んでいるようだが、一つ一つの被災地域に対する結論がでないまま、さまざまな応急対応事業がなされている。

中国四川大地震の死者は7万人を数えようとしているが、その大半は倒壊した瓦礫の下で亡くなった方々である。中でも倒壊した学校での児童の死は、一人っ子政策をとっていた中国人民にとっては厳しいものがある。13年前の阪神・淡路大震災での死亡者の88%が家屋倒壊の下敷きであったという経験が、結果的に生かされていなかったという事実を、私たち経験者は重く受け止めなければならない。救われるのは、いつでも同じだが、被災地四川の建物が全滅したのかということそうでもない。チャン族など少数民族が伝承してきた住まいをはじめ、壊れずに踏ん張っていた建物も少なくないのである。そこに学ぶべきものがあることは間違いないが、「建物さえ壊れなければ」という無念の思いは繰り返される。

そんな中で、注目すべきは「中国版ボランティア元年」の兆しが見えたということではないだろうか。軍の規制があり、すべての被災地にボランティアが自由に入れないが、いち早く被災地成都に入ったCODEのスタッフは、現地の被災者と「痛みの共有」を実感しつつ、中国のボランティアや、とにかく駆けつけてきた日本人ボランティアとともに、可能な限りの被災者に対する支援活動を展開し、中国のボランティアに勇気と希望を与えている。折しも、2月17日に開催したCODE法人取得5周年記念フォーラムであらためて確認したあるべき「行動と思想」を、結果的に実践知として再検証する大災害が発生したことになる。「被災地責任」「震災後民主主義」「声なき声の表現」という大切な視点を持ちつつ、現地で被災者やボランティアと「生き方」「幸せ感」「人間関係についての価値観の変化」を寄り添い、汗をかく労働を通して、かすかなつながりを感じつつ、「最後の一人まで」という思想を根底

にボランティア活動を重ねている。巨大な中国の中での今回の被災地の場合は、まだまだ多くの人たちがまず幸せになることを願いながら、一方で急成長を遂げようとする小・中都市の課題に頭を抱えながら、これまで阪神・淡路大震災から学んできたCODEの「行動と思想」を確かめつつ日々が重ねられている。被災地責任とはいえ、叶わぬ国際社会のハードルの前で立ち往生するかもしれない。

阪神・淡路大震災からの13年間では、「支えあう」ということについて十分な議論はして来なかった。それは実践が先であったからだ。今回のケースも国境があるものの、「国と国」はともかく、「人と人」は必ずつながるのだという手応えを感じつつ、地球市民として”減災”に取り組んで行かねばならない宿題を頂いたようなものだ。CODEが13年間追求してきた市民主体の新しい市民社会に向けて、新しい1ページが開かれたことを、「中国版ボランティア元年」が真のボランティア文化につながることを祈りながら、2008年度のさまざまな事業に取り組みたい。

【海外災害（地）への救援活動事業】

事業名	ジャワ島中部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2006年5月27日から継続事業）
実施場所	インドネシア ジャワ島中部 バントウル県バングンタバン市ウィロケルテン村ボトクンチェン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	被災地域であるボトクンチェン村の住民108人。（25世帯）
実施内容	<p>ジャワ地震後の住宅再建支援は前年度の2006年10月の引き渡式での調印でもって完全に終了。その後住民主体の地域経済の再建を検討しようとした矢先に住民のリーダーであるソギマンさんが死去したことに伴い、新たなリーダーが生まれたが、まだまだ住民の信頼を得ていないとのことで同村での支援事業はすべて終了した。その後2007年後半、ジャワ地震の他の被災地から提案があり、2008年1月度理事会で審議、決定した「ウォータープロジェクト」（説明は次表に）については、必要な支援金（約82万円）を現地に送金し、いよいよ本格的に同プロジェクトを着手することになっている。（すでに3月末より着工）</p> <p>同プロジェクトのカウンターパートナーは、先述の住宅再建プロジェクトを指導されたエコ・プロワットさん（DUTA WAGANA CHRISTIAN UNIVERSITY）であること、彼も「CODE フォーラム」に参加されたこと、からCODEの基本的なコンセプトおよび運動理念はじめ思想的な背景には賛同を得たものと思われる。今後は、このウォータープロジェクトが主となり、ジャワ地震後の支援の継続となる。</p> <p>従って、本プロジェクトの事業名を「ジャワ島中部地震救援プロジェクト：復興フェーズへの移行支援プロジェクト」と位置付け、“呼び水プロジェクトー復興への移行支援ー”とする。</p>

事業名（新）	呼び水プロジェクトー復興への移行支援ーインドネシア・中部ジャワ “ウォータープロジェクト”
実施日時	2008年4月1日から
実施場所	インドネシア・中部ジャワ Yogyakarta 省 Gunung Kidul 地区 Giri Sakar 村
受益対象者の範囲及び予定人数	当面上記に住む住民30世帯132名
実施内容	<p>2006年5月に発生した同国ジャワ島中部ジャワ地震に関する支援活動の延長上に生まれた新たな支援プロジェクトである。乾期における水の確保のための緊要の対策として、2008年3月末よりパイプラインの敷設支援を始める。一方で、現地では持続的な水環境を確保する自然体系の構築にチャレンジするために「パーマカルチャー」（パーマナント＋アグリカルチャー）の勉強会を始める。</p> <p>ちなみに、2006年5月の中部ジャワ地震でのGiri Sakar村の住宅被害は全壊4軒、半壊11軒で住宅再建は2007年度中に完了した。</p>

事業名（新）	バングラディッシュ・サイクロン「シドル」救援プロジェクト
実施日時	2007年11月20日から
実施場所	水害被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	「シドル」発生後、直ちに情報収集をするとともに、募金活動を主とした救援活動の準備を開始。偶然 CODE の元スタッフ齊藤容子さんが、バングラディッシュに何度も入っていることから適格な情報を提供して頂き、CODE の身の丈にあった支援プログラムの選択にあたって下さっている。幾つかの選択肢の中から、シドルの被害にあいながら支援の手が差し伸べられていない孤児院の再建プロジェクトに充当することを予定している。
海外派遣	2008年度中に1回派遣予定

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト －JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）－
実施日時	2002年7月から継続事業
実施場所	アフガニスタン カブール州ミールバチャコット地域
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地区ババカシュガルの4つの村のぶどう家族500所帯とその地域住民（全世帯数1560世帯）
実施内容	2001年「9.11」の影響で、アフガニスタンに英米軍による空爆が開始され、その後カルザイ暫定政権を経て、本格的なカルザイ政権が誕生した。その後も継続して世界中の支援が入るが、年々治安悪化を招き、アフガニスタンに入ることも厳しくなってきた。そんな中で2002年から支援をし続けている「ぶどう畑再生プロジェクト」は、ゆっくりした足取りではあるが、順調に進んでおり、今年度で6年目に入る。日本の支援者から“ぶどうオーナー”を募り、ぶどう基金を設置して、現地のプロジェクトを支援してきた。 急激な治安悪化から、ここ数年現地でのモニターが出来ていないが、その替わりとしてJICAの草の根技術協力事業（地域提案型）として、現地からぶどう農家を招き、持続可能な農業と、農業と防災の関係を学ぶ研修を行っている。前年度からはじまり、今年度は2年目に入るが、大変好評であり現地でも日本で学んだことをワークショップをして広げており、除々に成果をあげている。2年次の今年度は、さらに有機農法によるぶどう栽培を実践と座学で学ぶのでより成果が期待できる。

事業名	アルジェリア地震救援プロジェクト
実施日時	2003年5月からの継続事業
実施場所	アルジェリア
受益対象者の範囲及び予定人数	対象地域住民
実施内容	前年度事業報告でも触れたように、現地に防災教育の伝搬として入った神戸市教育委員会の職員を通して支援先を探している。これに加えて TELLNet（事務局 人と防災センター）からの情報も参考にしながら、今年度中には支援先を決定したい。

事業名	イラン南東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2003年12月から継続事業）
実施場所	イラン ケルマン州バム
受益対象者の範囲及び予定人数	・対象地域に住んでいる約100人の子どもと同地域に住む女性など若干名
実施内容	事業報告でも触れたように、CODEが支援したコミュニティーセンターは、現地の被災者主体の運営・管理に移行した。SNSなどからの報告を参考にしながら現地の活動を見守りつつ、今後は現地からの新たな提案があればその都度検討する。

事業名	スマトラ沖地震津波災害救援プロジェクト
実施日時	随時（2004年12月から継続事業）
実施場所	スリランカ
受益対象者の範囲及び予定人数	スリランカ：防災教育支援：タララ村の子ども約50人 幼稚園・保育園再建支援：約240名（予定） （6つの地域で幼稚園を建設） 漁業組合支援：約300名（2つの地域で実施） 絵本が完成すれば、その読者すべて。
実施内容	2006年から上記の支援をしてきたが、どれもほぼ前年度で終了。1軒のみ保育所再建が再建途上であるのみだが、今年度前半期には完成見込み。（最新の情報は5月末完成） なお、前年度まで CODE 現地スタッフとして活動してきた濱田久紀さんは帰国されたので、その後の他のプロジェクトなどの進捗状況の確認については、現地のカウンター・パートナーMR、チャクとメールでの情報交換が主になる。

事業名	パキスタン北東部地震救援プロジェクト
実施日時	随時（2005年10月8日から継続事業）
実施場所	パキスタン・イスラム共和国アザド・ジャム・カシミール州（AJK）ムザファラバード市街地ワード13地区
受益対象者の範囲及び予定人数	上記に住む住民で、主に生活向上プログラムに関わる女性たち。
実施内容	<p>同国の政情不安から、職業訓練センター及びCBO委員会事務所の設置という本プロジェクトが順調に進むかどうかが大変心配される所であったが2008年4月初めに、これまでも間に入って調整して頂いたフォージアさんからメールが届き、センターは完成して材料も購入したとのことである。後は熟練したインストラクターがいれば、職業訓練センターとしての機能が開始される。ムザファラバード開発局の局長（ワード13の住民でもある）にサポートをお願いし、プロジェクトの開講式も行われる予定。予定より1年遅れであるが、政権交代などの政治体制の激変があったなかにおいては、ほっとするところでもある。</p> <p>* フォージアさん 現地ワード13のCOB委員会に出入りしているコンサル会社(株)パセット（本社東京）の元研究員</p>

事業名（新）	ミャンマー（ビルマ）・サイクロン「ナルギス」救援プロジェクト
実施日時	2008年5月7日から
実施場所	水害被災地域（ヤンゴン、デルタ地域）
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	サイクロン「ナルギス」の被害は、国際社会への発信の遅れと、ミャンマー軍事政権の他国からの支援を頑なまでも拒む姿勢で、甚大な被害になった。支援については、可能な限りの信頼できる情報網を駆使し、CODEの理念とする援助の届きにくい人たち、または援助の届きにくい地域を優先的に支援する。

事業名（新）	中国・四川大地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日から
実施場所	地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	ミャンマー（ビルマ）・サイクロン被害から10日後、中国・四川省を中心に巨大地震が襲い、甚大な被害をもたらした。地震発生時、CODEの元臨時スタッフが雲南省にいたこともあり、すぐに被災地に入りした。その後被災地の状況をレポートすると共に、耐震建築の必要性やボランティア活動の重要性など神戸の教訓を伝えながら、情報収集をしている。今後は神戸華僑総会など関係者や他のNGOなどからの情報も得て、CODEならではの復興支援プロジェクトを行いたい。

【人材育成事業】

事業名	NGO ことはじめ
実施日時	年間を通じて3~4回
実施場所	当センター会議室もしくは神戸市内の貸し会場
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など約60人（1回15人程度）
実施内容	今年は、もう一度原点に戻り、「NGO 入門編」はじめ「災害救援を通しての国際教力」など地道に開催したい。これまで同様、大学生などの自主的な企画で運営していきたい。

事業名	HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー
実施日時	年間を通じて1回程度
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	大学生など10人
実施内容	今年度は復活する。

事業名	スタッフのスキルアップ研修（スタッフは専従・非専従を問わない）
実施日時	随時
実施場所	原則国内
受益対象者の範囲及び予定人数	若干名
実施内容	該当する特に若者がいれば、積極的にサポートする。

事業名	ボランティアの日
実施日時	隔月1回
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	ボランティアに関心のある人 約20~30名
実施内容	非常勤スタッフによって、機関誌づくりやHP改善などのアドバイスが可能になっている。できるだけ、ボランティアの日を設定し、参加型で進めたい。

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	災害情報サイト (CODE World Voice) の運営
実施日時	随時 (2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて。 CODE の翻訳ボランティア 30 人 (前年は 20 人)
実施内容	これまで同様無理をしない程度に継続していく。若干名ではあるが、松蔭女子高校生など高校生がこうした翻訳に関心を持って下さっているのでサポートしたい。

「ネットワーク構築事業」

事業名	(関係機関からの受託事業) 神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣
実施日時	4月8日から、毎週火曜日。7月15日まで。(4月29日・5月6日は休講)
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	30人
実施内容	CODE とのコラボレーション事業という位置づけで始まった神戸学院大学社会貢献ユニットへの講師派遣は、今年度も下記のようなスケジュールと講師陣および内容で行う。 <内容> 第1回(4/8) ガイダンス(浅野、村井) 第2回(4/15) CODE海外災害援助市民センターが担う社会貢献(村井) 第3回(4/22) 象徴的復興と回復力 ー写真集「いやしの能登」を題材にー(村井) 第4回(5/13) 中山間地域での災害復興から学ぶ(鈴木隆太) 第5回(5/20) 阪神・淡路大震災から14年目の「いま」被災者は?(牧 秀一) 第6回(5/27) 援助論と開発(藤野達也) 第7回(6/3) 災害時における地域力(織田峰彦) 第8回(6/10) 前期の振り返り(浅野、村井) 第9回(6/17) 災害復興の鍵は、地域経済の自立 ー国内外の災害現場よりー(村井) 第10回(6/24) ジェンダーの視点から考える減災サイクル(斉藤 容子) 第11回(7/1) 農業が担う持続可能な社会づくり(本野一郎) 第12回(7/8) 次世代に語り継ぐ(村井) 第13回(7/15) 前期・後期を振り返って(浅野、村井)

事業名	(関係機関からの受託事業) JICA 兵庫および JICE からの委託事業による「留学生セミナー」開催。
実施日時	年1回、期間は8月21日から1週間
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	毎年公募による留学生が対象。10人から15人。
実施内容	JICA のこの事業は来年度から中止。今年度は移行期間として、これまでのデータや留学生のアンケートから人気のあるプログラムについては、今年度も実施することになり、CODE が選ばれた。

事業名	(関係機関からの受託事業)「アフガニスタン・カブール州シャモリ平原における農業開発と地域防災の相互補完促進事業」(JICA 草の根技術協力事業(地域提案型)二年次)
実施日時	7月9日(水)～19日(土)
実施場所	主に兵庫県佐用町、補助で山梨県牧丘町倉科
受益対象者の範囲及び予定人数	アフガニスタンからの研修生7人
実施内容	JICAの平成20年度草の根技術協力事業(地域提案型)として実施。今年度は二年次。昨年同様、アフガニスタンから7名の研修生を招くが、内一人は女性省農業担当者を人選。実施場所は昨年同様、主に兵庫県佐用町で行い、補助として山梨県のぶどう農家、澤登農園で行う。 <研修日程案> 7月9日 関空着、JICA兵庫に宿泊 7月10日 山梨県に移動 7月11～14日 澤登農園にてぶどう有機栽培の実習と講義 7月15日 兵庫県佐用町へ移動 7月16～17日 佐用町農業関連施設見学と高校畜産科との交流学习 7月18日 2年次の振り返りと3年次の決意 7月19日 神戸市内見学、関空発

事業名	(関係団体への正会員加盟やシンポジウムなどの実行委員会あるいは運営委員会への参加)
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> * 関西 NGO 協議会—正会員として加盟 * UNCRD 兵庫センターの定例シンポジウムの実行委員として参画 * TELLNet のメンバー員、及び事務サポート * その他依頼があれば、CODE の理念に反してなければ、理事会で協議・審議した上で参画する方向で考える。

事業名	(関係団体の主催する事業との連携) コープこうべ自然災害救援基金での報告会にスタッフ派遣。
実施日時	最低年1回
実施場所	コープこうべ生活文化部
受益対象者の範囲及び予定人数	会員はじめ不特定多数。
実施内容	コープこうべ2007年度事業計画に「CODEとの連携」が掲げられていることもあり、積極的にこの種の報告会には参加する。

事業名	(関係団体の主催する事業との連携) ゆとり生活館 AMIS(1F)の NPO/NGO 交流コーナーに参加
実施日時	年数回開催
実施場所	同会館 1 階
受益対象者の範囲及び予定人数	同会館利用者
実施内容	前年度同様積極的に協力する。 (内容) 年 1 回の運営委員会、年 1 回の発表会には参加する。

事業名	「ほっとけない世界のまずしさ」キャンペーンへの参加
実施日時	随時 (2005 年 9 月から継続事業)
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び人数	
実施内容	前年度同様、様々な機会販売を試みる。 (予定販売数) 100 本

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名（新）	CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般。
実施内容	今年度から、これまで個別に掲げていた学習会事業を、「CODE 寺子屋学習会」として一括集約し、それぞれの学習会の成果をもとに、さらに調査・研究が必要となれば理事会で諮る。従って、当面のテーマは「協同組合勉強会」「予防防災についての学習」「マイクロファイナンスについての学習」などとするが、その他 CODE として必要と思われるテーマがあれば随時取り上げる。

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	拡大目標として下記のように目標設定し、実現を目指す。 ◎賛助会員 増員 20名を目標とする。

事業名	救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	CODEの主たる事業である救援プロジェクトについての報告会を随時開催する。報告会開催によって、市民による災害救援への一層の理解と、新たな支援者の獲得をはかる。また、災害救援全般やNGOについてなど講師派遣の依頼を受けた場合にスタッフ等を派遣し、普及活動に努める。 現在の所、確定している派遣日程は以下の通りである。 <2008年度の予定> ・ チャリティライブ ・ 防災士機構への講師派遣 ・

事業名	(関係機関からの受託事業) 神戸女子大学、甲南女子大学、龍谷大学、関西学院大学への講師派遣委託
実施日時	下記の通り
実施場所	下記の通り
受益対象者の範囲及び予定人数	講義の受講生
実施内容	<内容> (確定分) ・ 5月21日 神戸女子大学神戸国際教養学部 ・ 6月13日 関西学院大学 ・ 6月21日 防災士研修(京都) ・ 7月4日 防災士研修(福井) ・ 11月19日 龍谷大学経済学部 ・ 12月5日 関西学院大学神学部 ・ 他甲南女子大学など

* その他の派遣

英国の NGO＝アクション・エイドから、スペイン・サラゴサ国際博覧会の市民参加パビリオン「エル・ファロ」での「災害支援」をテーマとするシンポジウムにシンポジストとして参加して欲しいかという依頼があった。最初は JVC の熊岡さんに打診があったが、先方から阪神・淡路大震災のことをもとに話して欲しい旨の依頼があり、熊岡さんが CODE の村井理事を推薦することを伝えたところ、イラン・バム地震の際アクション・エイドが CODE の活動を知っていたこともあって、調整はスムーズに行った。そのシンポジウム開催日程は 7 月 21 日。一応村井理事が参加するという方向で調整中。

事業名	機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年 4 回発行 インターネットは随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地 700 人/団体 インターネットは不特定多数
実施内容	CODE の機関誌である「CODE レター」を季刊発行する。 平行して、ホームページやメーリングリストを利用したインターネットによる情報発信も行なっていく。CODE のメーリングリストは多くの方に見て頂いていることもあって、今年度もメーリングリストに必要な情報を流すことに努力する。あわせて、HP の改善を図っていきたい。また、新聞、テレビ、雑誌、ラジオなどのメディアに対して積極的に広報を行なう。 (具体的内容) ・ 機関誌は年 4 回発行、一回で 700 部 インターネットの改善についての外部委託

事業名	冊子及び書籍等の発行及び支援グッズの販売
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	これまで独立した事業立てをしていた「支援グッズ販売」はここに組み込むこととする。 これまでに CODE が発行してきた冊子や書籍の販売を継続する。 また、昨年度も実行できなかったが下記の 2 点について財政的に可能であれば、「CODE ブックレット」のようなイメージを想定して発行したい。 ・ 「国際的な人道活動と CODE」CODE 設立 2 周年記念での芹田代表理事による講演録 ・ 「予防防災」2005 年度寺子屋防災での室崎副代表理事における講演録

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	CODE エイド設立のための情報収集および研究
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	約 5 人
実施内容	本プロジェクトは、発足当初以来検討されているが、CODE を財政的に支えるファンドづくりは難しい。しかしながら阪神・淡路大震災をきっかけに生まれた災害救援 NGO として、期待されているところは大きい。昨今、市民ファンドに関連する動きは多彩になってきた傾向もあるだけに、「CODE エイド」誕生の可能性も不可能ではない。もう少し機が熟するのを待って再議論をすることにする。

事業名	CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	本奨学金制度は、3 年目に入る。1 年目の該当者は齊藤容子であるが、当人が留学する直前に開いた歓送会終了後、その時集まった資金 53 万円を全額本人に奨学金として手渡す。昨年度は該当者の提案がなかったため実施せず。今年度は今のところ該当者が見あたらないが、基金はゼロなので、資金の集め方も含めて検討するために、「CODE 奨学金制度設」担当理事を置いて進める。